

「第22回NCC-URM全国協議会」

主題 「食・農・命」

<呼びかけ文>

「都市」と「農村」との実態としての関係は今日に至るまで長らく、世界の各地における近代化のプロセスの中で、「中央」と「周辺」という偏見や、両者間の格差など、私たちの社会に大きな歪みを生じさせています。その歪みは、原発の立地、米軍基地の配置、そして、新型コロナワクチンの接種状況を巡る問題などにも反映しています。

今回のURM全国協議会では、広島県中山間地域での20余年に及ぶ「共生庵」の主宰、また、それぞれの地域における「農」の営みや取り組み、そして、新型コロナの大流行に対する医療活動といった現場からの声を、まず伺います。テーマは「食・農・命」です。

1967年に「都市産業伝道(UIM)委員会」として設置された当委員会は1979年、都市農村宣教(URM)委員会と改称しました。そこに当委員会の視座の変革を見ることができます。当初、60年代の高度経済成長に伴う急激な都市化・工業化、都市への人口集中を背景に生じる諸問題を、都市の抱える課題として担う姿勢が中心であったようです。しかし、これらの問題は、裏表の関係でそのまま、多くの農・林・魚村の労働人口の激減や過疎化、経済的疲弊の問題に他なりません。両面を持つ共通の問題を、都市と工業・産業(Industrial)の側の視座のみでなく、むしろ、都市との裏腹の分かちがたい関係にある農村(Rural)の側の視座にできる限り重心を置き、見つめなおそう、という変革と言えます。

「都市－農村」或いは「中央－周辺」の関係に象徴される問題は、いつの時代にも見受けられます。これは、この世界に遣わされた教会に託された福音宣教の課題に他なりません。

新型コロナ感染防止のため、昨年の開催予定が延期された今回の全国協議会は、オンライン形式で、時間も大幅に短縮されます。私たちに託された課題を担い合い、少しでも共に前に進みたいと願います。ご参加をお待ちしています。

NCC-URM委員会委員長 原田光雄

1) 日程 2021年10月25日(月)午後1時半～午後6時645

2) 主題 「食・農・命」

3) 会場 ZOOM

4) 参加費 1000円 申し込み後、以下に送金ください。

郵便振替 <00960-2-145645 NCC-URM>

(※以前の案内で、145545とまちがって記載していました。申し訳ありません。)

5) 申し込み方法 名前、所属、連絡先、e-mail等を、10月15日までに飛田(ひだ)雄一 hida@ksyc.jp までお送りください。開催2日前に、ZOOMアドレス、資料をメールでお送りします。※共生庵(広島県三次市三和町敷名126)には、荒川さんと委員会メンバー(10名程度)のみ参加、その他の参加者はオンライン参加のみです。

6) 募金のお願い/上記郵便振替で募金をお送り下さればありがたく思います。

<プログラム>

*開会あいさつ 原田光雄（NCC-URM委員会委員長） 13:30～13:40

*開会礼拝 説教 金性済さん（きむ そんじえ、NCC総幹事） 13:40～14:00

*主題講演

「食：マレーシアサラワクから共生庵へー農村での学びと交流ー」

荒川純太郎さん（あらかわ じゅんたろう、共生庵） 14:00～15:00

（休憩10分）

*発題・現地報告(オンライン) 15:10～17:10（発題 30分、質疑応答 10分）

①「農：キリスト教（神学）以前ー農村伝道神学校からー」

池迫直人さん（いけさこ なおと、生田教会牧師・農村伝道神学校兼任教師）

②「農：北海道での農場経営からー三愛塾・道北センターとのつながりー」

五十嵐紀子さん（いがらし のりこ、北海道士別市上士別町／五十嵐農園）

③「命:絶望と意味-キリスト者医療従事者として COVID-19 に向き合う」

大友宣（おおとも せん、医師、JOCS 常務理事、医療法人 財団老蘇会 静明館診療所理事）

*交流のとき 17:10～17:40

*ふりかえり／閉会礼拝 原田光雄 17:40～18:00